

立命館大学

国際平和ミュージアムだより

KYOTO MUSEUM FOR WORLD PEACE, RITSUMEIKAN UNIVERSITY

Vol.28-1 (通巻81号) 2020.8.28発行



Contents

01 理念・総括

02 声明・談話

あいちトリエンナーレ「表現の不自由展・その後」展中止及び文化庁による補助金交付取り消しについての声明
ペシャワール会・中村哲医師の銃撃死を悼む

03~10 展示報告

11~15 平和教育研究センター報告

15~16 教育普及活動

17 博物館資料

18・23 今後の展示予定

19~22 入館者状況・活動記録

23 遊心雑記

理 念

人類は20世紀において、2度におよぶ世界大戦を経験し、幾千万もの命を失いました。しかし、地域紛争は今なお絶えることなく、多くの人びとが生存の危機にさらされています。また、飢えや貧困、人権抑圧や環境破壊など人類が共同して解決すべき問題も、多様な形で浮上ってきています。わたしたちは、紛争の原因を取りのぞき、人間の可能性が豊かに花開く平和な社会の実現に向けて努力することが求められています。

立命館大学国際平和ミュージアムは、平和創造の面において大学が果たすべき社会的責任を自覚し、平和創造の主体者をはぐくむために設立されました。

総 括

2019年度は立命館大学国際平和ミュージアム第2期リニューアルの具体化の取り組みと国際ネットワーク強化の2つの重点課題に取り組み、「立命館大学国際平和ミュージアム第2期リニューアル基本計画」の策定、そして9月に開催された国際博物館会議京都大会（ICOM）関連事業に取り組みとともに、2020年9月に予定されている国際平和博物館会議の開催にむけた支援を行ってきました。

展示では、常設展の他に春季特別展「よみがえる沖縄1935」、世界報道写真展2019、秋季特別展「上野誠版画展—『原爆の長崎』への道程—」、ミニ企画展示として公募企画展4企画を含む8企画を開催し、①戦争の記憶を共有、②平和創造、③平和問題の調査・研究という当館の目的に沿った活動を展開しました。

教育普及活動では、博物館実習、インターンシップ、チャレンジ体験の受け入れを行い、立命館学園との教学連携を果たすことができました。立命館大学国際平和ミュージアム平和教育研究センターでは8件の研究プロジェクトを設置し、旺盛な研究活動を展開するとともに、多様な講演会、映画会、公開研究会の開催や紀要『立命館平和研究』を発行し、地域社会にむけて立命館大学国際平和ミュージアムの取り組みを発信することができました。

また、2019年度には「あいちトリエンナーレ「表現の不自由展・その後」展中止及び文化庁による補助金交付取り消しについての立命館大学国際平和ミュージアム館長・名誉館長声明」（2019年10月14日）、および「ペシャワール会・中村哲医師の銃撃死を悼む（談話）」（2019年12月5日）を発表し、ミュージアムとしての主張を広く社会にむけて

発信しました。中村哲医師の銃撃死に関しては、その死を悼み、2003年の特別展「井戸も掘る医者—ペシャワール会の医療活動・緑の大地計画—」の一部を抜粋して追悼展示を開催しました。

10月7日には2018年ノーベル平和賞受賞者のデニ・ムクウェゲ氏が来館し、展示見学と館長との懇談を行い、館へのメッセージ（地階常設展示室に展示中）をいただきました。

“このミュージアムは平和にとって重要な博物館です。学術的・科学的な基盤に支えられ、公平性が保たれています。正義なくして、永遠の平和はありません。正義を推進し、平和のために共にがんばりましょう。”

2019年10月7日 デニ・ムクウェゲ



2019年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、3月2日から3月21日を臨時休館することとなりました。

あいちトリエンナーレ

「表現の不自由展・その後」展中止及び文化庁による 補助金交付取り消しについての声明

2019年8月3日、「あいちトリエンナーレ2019」における企画展「表現の不自由展・その後」展が、脅迫行為により開催中止となりました。このような脅迫行為が「表現の自由」「国民の知る権利」を脅かす由々しき行為であることは言うまでもありませんが、今回の「表現の不自由展・その後」展については、同展中止に先立つ8月2日には河村たかし名古屋市長が展示内容を批判し、菅義偉官房長官が補助金の交付決定の見直しに言及するなど、政治家による批判的言及が相次ぎました。そして9月26日には文化庁が「あいちトリエンナーレ」への補助金交付取り消しを決定しました。

これらの一連の動きは、個人の思想・信条の自由な表現である芸術表現に対し、公人としての政治家及び国家組織がそれを抑圧するものであり、日本国憲法第二十一条に記された「集会、結社及び言論、出版その他一切の表現の自由は、これを保障する」、同条2「検閲は、これをしてはならない」という条文に違反する恐れのあるものです。

これまでも自治体首長の歴史観・価値観によって平和博物館が展示の変更を迫られた事実があります。

「戦争の被害と加害の両面に目を向け、過去と誠実に向き合う」ことを基本姿勢とする立命館大学国際平和ミュージアムとしては、このような一連の動きが個人の思想・信条の自由な表現としての芸術表現・展示表現を抑制する検閲の効果を及ぼす可能性を危惧し、文化庁の決定に対して遺憾の意を表明するとともに、「あいちトリエンナーレ」への補助金交付取り消しのすみやかな撤回を求めます。

2019年10月14日

立命館大学国際平和ミュージアム

館長 吾郷 真一
名誉館長 安齋 育郎

ペシャワール会・中村哲医師の銃撃死を悼む

伝えられるところによれば、ペシャワール会現地代表の中村哲医師が、2019年12月4日、自ら復興のために献身してきたアフガニスタンの地で何者かに銃撃され、急逝されました。立命館大学国際平和ミュージアムは、その死を悼むとともに、こうした理不尽な暴力に対して深い憤りを表明します。

国際平和ミュージアムは、中村医師らの活動に早くから注目し、2003年5～6月には、衣笠キャンパスおよびびわこ・くさつキャンパスにおいて、特別展「井戸も掘る医者～ペシャワール会の医療活動・緑の大地計画～」と記念講演会を開催、中村医師にも立命館大学での講義にご出講いただきました。

中村医師は、パキスタンやアフガニスタンでの難民の多くが大旱魃によって発生しているという認識に基づき、生活用水と農業用水を確保するために大規模な灌漑事業に取り組み、2010年には総延長25kmをこえる用水路の完成によって約10万人の農民が暮らしていける基盤を築きました。

2003年の特別展に当り、中村医師が当ミュージアムに寄せたメッセージの中では、「武力や政治スローガンは旱魃対策になりません、平和の基礎は、相互補助に生存の保障です、私たちは『生きること』、そのことに希望を見ます。猛々しい軍隊のライフルや頭上を飛ぶ米軍機をよそに、今日も黙々と作業に励みます」と述べられています。企画実施に際して安齋育郎館長（当時、現名誉館長）は、「人が人に手をさしのべ、いのちを紡ぎ出す ペシャワール会のめざましい活動は、私たちに人間としてのありようを考えさせてくれるでしょう」と述べました。

私たちは、いま、いのちを紡ぎ出すために懸命に献身された中村哲医師のいのちが暴力によって奪われたことに衝撃を受けるとともに、こうした暴力を生み出す社会のあり方に目を向け、世界の平和博物館と共同して平和の尊さを人々に訴えとともに、かけがえのない命を豊かに育む文化の発展のために努力することを目指します。

2019年12月5日

立命館大学国際平和ミュージアム

展示報告

1 常設展

常設展示は、テーマ1「一五年戦争」・テーマ2「現代の戦争」(地階展示室)とテーマ3「平和をもとめて」(2階展示室)の3つに分かれています。2019年度は2階展示室の「さいころくん」リニューアルを行い、2020年4月から新しい「さいころくん」の展示を開始するよう準備を進めました。

地階展示室では、「平和をみつめて」の大テーマの下に「一五年戦争」「現代の戦争」の2つのテーマを設け、日本の「一五年戦争」と「第二次世界大戦以降の戦争と平和」を中心に展示を行っています。戦争の実態を通して、平和な世界のために何をしなければならぬのかを考えます。

2階展示室では、「平和をもとめて」をテーマに、戦争や核兵器の問題だけでなく、人間が、自分の力を十分に発揮して生きることを妨げる様々な要因を考え、平和の道筋を探るための展示を行っています。また、平和をつくる主体としての市民平和活動を紹介する展示、平和をはぐくむ京の人びとの展示も行っています。

また2階展示室内にある「[無言館] / 京都館一いのちの画室」(長野県上田市にある戦没画学生の慰霊美術館「無言館」の京都分館)では、芸術家としての夢を戦争によって断たれた青年たちの生きた証が印象深く展示されています。2019年度には、片桐彰作「信州風景」に代わり、磯田豊治作「急須」を新たに展示しました。



「2階展示室」

見学者の声

戦争のことを改めて知り怖いと思いましたが、やはり昔があるから今があるので昔の人が残してくれたものを大切に次の世代へ受け継いでいくことが私にできることだと思います。ガイドさんも丁寧に教えて下さってまた来年も来ようと思います。(高知県 10代 中学生)

大変学術的かつ立命館大学も戦争に協力していたということも隠すことなく表明されており、大変信頼できる立派な施設だと思った。(富山県 60代)



「[無言館] / 京都館一いのちの画室」



「地階展示室」



「地階展示室内「民家」」

2 特別展

2019年度は3件の特別展と1件のロビー展示を行いました。春季特別展は朝日新聞社、沖縄タイムス社と共催し、KYOTOGRAPHIE京都国際写真祭2019のアソシエイテッド・プログラムとして開催しました。世界報道写真展は世界報道写真財団や朝日新聞社などと主催する毎年恒例の取り組みであり、現代の様々な課題をテーマに取り扱ったドキュメンタリー、報道写真の展覧会として、写真に興味がある若い層を含む多くの来場者に参観いただきました。秋季特別展ではひとミュージアム上野誠版画館の協力を得て開催することが出来、新たなコミュニティの形成にも繋げることが出来ました。

KYOTOGRAPHIE京都国際写真祭2019 アソシエイテッド・プログラム

2019年度春季特別展 よみがえる沖縄1935

会 期：2019年4月13日(土)～6月29日(土)
主 催：立命館大学国際平和ミュージアム・朝日新聞社・
沖縄タイムス社
協 力：KYOTOGRAPHIE京都国際写真祭、フレームマン、
東京大学大学院情報学環・渡邊英徳研究室
参観者：11,271名

アジア太平洋戦争末期の沖縄戦では人命はもとより、建物、景観も含め多くのものが失われてしまいました。その10年前の1935年に、朝日新聞の記者が撮影し、「海洋ニッポン」という記事に掲載した写真には、貴重な戦前の沖縄の営みが写し取られていました。展覧会では、朝日新聞大阪本社で見つかった277コマのネガから、人工知能(AI)技術と住民の記憶によりカラー化した写真を含む厳選した約100点の写真に、朝日新聞・沖縄タイムスの共同取材時の解説を加え、写真を通して戦争が激化する前の人々の日常と、そこに忍び寄る戦争の影を読み解きました。あわせて立命館大学国際平和ミュージアム所蔵の沖縄関連資料も展示し、現代へと繋がる「1935年の沖縄」を描き出しました。

アンケート結果からは、沖縄とのつながりや沖縄への関心のあつた来館者が多く観覧したことがうかがえました。一方で、学生などを中心に沖縄問題に対する問題意識も喚起することができました。

参観者の声

展示室内の沖縄の学者の方の言葉が印象に残りました。写真の中の人々は、いつもの日常を送っているなか、新聞では国策に基づいて、プロパガンダとして沖縄の人々を利用しているという指摘です。新聞、TV、ネットと現代社会では様々なメディアが誕生しました。我々、情報の受信者達は、発信者の意図によって行動を左右されるという事を改めて自覚しました。素晴らしい特別展だったと思います。(京都市 10代 本学学生)

戦争前のおだやかで豊かな沖縄を写した写真が並んでいると思ったが、解説に本土の戦争へ向かう事への理由付けにも使われた企画・写真とあっておどろいた。解説やビデオなど背景がよく分かるあしらいがあって良かった。(大阪府 30代 会社員)



関連企画

座談会&ギャラリートーク

「ネガ発見秘話と記者たちの思い」

登壇者：清水 隆氏 (朝日新聞大阪本社フォトアーカイブ)
吉田 拓史氏 (朝日新聞社西部本社報道センター)
堀川 幸太郎氏 (沖縄タイムス編集局社会部南部報道部)

コーディネーター：北村 順生氏 (立命館大学映像学部准教授)

日 時：2019年4月27日(土) 13:00～15:00

会 場：立命館大学国際平和ミュージアム 1階ロビー

映画上映会

『海の民 沖縄島物語』(国際映画アーカイブ所蔵)

『やぎの冒険』

日 時：2019年5月7日(火) 16:30～18:30

会 場：平井嘉一郎記念図書館 1階シアタールーム

世界報道写真展2019

—WORLD PRESS PHOTO 19—

76億の目撃者たち

滋賀展

立命館大学びわこ・くさつキャンパス エポック立命21 エポックホール
 会期：2019年9月23日(日)・(祝)～10月5日(土)
 参観者：704名

京都展

立命館大学国際平和ミュージアム 中野記念ホール
 会期：2019年10月7日(日)～10月31日(木)
 参観者：7,036名

主催：立命館大学国際平和ミュージアム、朝日新聞社、
 世界報道写真財団
 協力：特定非営利法人 国境なき医師団日本

「世界報道写真展」は今年で62回目を迎えました。今回は世界各地の129の国と地域から約8万点の応募がありました。会場には、ジョン・ムーアがメキシコとアメリカの国境で、母親の取り調べ中に泣き叫ぶホンジュラスの少女を捉えた大賞作品のほか、サウジアラビアのカショギ記者が行方不明になった事件で、サウジの総領事館に押し寄せる報道陣の姿を写した作品など、8部門43人の受賞作品が並びました。毎年来場いただくリピーターの方をはじめ、今回初めて来場された方、又は来場いただいた方も多く、一般の方や学生など幅広い層の方々から大きな反響がありました。来場者には、一枚一枚に向き合うことで、世界でいま何が起きているのかを受け止め、「平和」について考えていただく機会となりました。

多数の方がアンケート回答をされ、会期中に二つの会場で912枚のアンケート回答を得ました。「身近に見ることが出来ない外国の事情を知ることが出来た。TV、新聞では表面の事柄しか報道がない。現地で生活しながらの1枚の写真は事実を物語るのに強烈な媒体だと思います。」「自分は初めてでしたが、母が毎年行って話を聞いていたのである程度は知っていた。しかし、実際に見てみると衝撃だった。来て良かったと思う。知ること見ること感じること。大学生の間に写真展に掲示された問題をもっと詳しく勉強したいと思った。」「私は大阪市内で保育士をしています。このような写真展や講演会を初めて知り、経験させて頂きましたが、世界でこのような事が起きているのかを知り、見て、考える良い機会となりました。これからも参加させて頂きたいと思います。そして、子どもたちへの育ちに少しで生かせられたらと考えます。」といった感想が寄せられました。

参観者の声

カメラを通して事実を表現することの難しさ、一瞬でいかに捉え現す事実を大切に想う、心と目で体験出来るすばらしさをありがとう。
 (滋賀県 70代)

写真は衝撃的でした。一つずつにストーリーがあり、新聞で読むよりも大きさ、色、心に迫ってくるものがありました。世界中にある苦しみや悲しみが伝わってきました。
 (滋賀県 40代)

新聞やニュースで断片的にしか伝わらなかった事が一枚の写真で伝わり、世界の現状を改めて認識できました。日本の子供たちにこそ見て欲しいです。
 (滋賀県 50代 会社員)



関連企画

渋谷敦志氏 × 国境なき医師団トークイベント
 「人道危機の現場で、人々に寄り添うこと」

登壇者：渋谷 敦志氏 (フォトグラファー)
 大谷 敬子氏 (国境なき医師団看護師)
 日時：2019年10月14日(日)・(祝)14:30～15:30
 会場：立命館大学国際平和ミュージアム 1階ロビー

音楽イベント

世界報道写真展ロビーコンサート
 出演：立命館大学混声合唱団メディックス、立命館ジャズクラブ
 日時：2019年10月26日(土)13:30～
 会場：立命館大学国際平和ミュージアム 1階ロビー



2019年度秋季特別展

上野誠版画展

— 『原爆の長崎』 への道程 —

会 期：2019年11月7日(木)～12月18日(水)

主 催：立命館大学国際平和ミュージアム

協 力：ひとミュージアム上野誠版画館

参観者：6,867名

本展は、「ヒロシマ三部作（男・女・鳩）」（1959年）、「原子野連作A-H」（1968-76年）など広島・長崎の原爆被害を描いたことで著名な木版画家上野誠（1909-80年）の版画をひとミュージアム上野誠版画館（長野市）の所蔵作品を中心に紹介しました。展示では、長崎訪問の直後から制作を始めた掌版シリーズ（小版習作）と友人景川弘道（版画家）との手紙を手がかりに、原爆体験のない上野がどのように被爆者に向き合い作品に表現していったのかに焦点をあて、戦後復興の陰で差別や貧困、後遺症に苦しむ被爆者の訴えを版に刻み続けた上野の反戦・平和のメッセージを、遺された作品を通して伝えることが出来ました。

アンケート結果からは、版画や、平和運動を通じて上野作品に関心を寄せて来場された方々の他、会場で上野誠を知った来館者も多数いることがわかりました。“原爆の長崎”のテーマに向き合い続けた作者の思いを直接的に感じたという意見からは、原爆の被害という言葉だけで表現することが難しい内容を伝える手段として美術作品の持つ力が発揮されたことがわかります。関連イベントでは、ゆかりの方々に作品の背景や上野の人柄などを詳しく解説いただき、参加者から展示への理解をより深めることができたという感想が多く寄せられました。

参観者の声

以前、儀問さんの展覧会があり、明るさと厳しさを見せて貰った。今回は白黒版画が大半で、全体として重苦しさで圧倒された。それだけに残酷さを表現するには良かったと思う。世界報道写真展の強烈な印象＝“国際レベル”のインパクトの強さが頭に残っていたので、上野さんの作品は一点で切りさく印象が強かった。今後も見て、感じて、考える展覧会を期待しています。有難うございました。

(京都市 70代以上)

追悼展示

井戸も掘る医者

— ペシャワール会の医療活動・ 緑の大地計画 —

会 期：2019年12月6日(金)～12月21日(土)

会 場：立命館大学国際平和ミュージアム 1階ロビー

ペシャワール会現地代表の中村哲医師が、2019年12月4日、自ら復興のために献身してきたアフガニスタンの地で何者かに銃撃され、急逝されました。その死を悼み、2003年の特別展「井戸も掘る医者—ペシャワール会の医療活動・緑の大地計画—」の一部を抜粋して展示しました。



関連企画

トークイベント I

「日本の加害責任を版画にした上野誠」

登壇者：田島 隆氏（ひとミュージアム上野誠版画館 館長）

日 時：2019年11月9日(土)14:00～15:30

会 場：立命館大学国際平和ミュージアム 1階ロビー

トークイベント II

「父・上野誠」

登壇者：上野 道氏（版画家・ひとミュージアム上野誠版画館 副館長）

日 時：2019年11月16日(土)14:00～15:30

会 場：立命館大学国際平和ミュージアム 1階ロビー



3 ミニ企画展示

第122・123・124・128回は公募展示、第125・126・129回は当ミュージアムでの制作、第127回は毎年恒例の立命館附属校平和教育実践展示でした。第125回は立命館大学国際平和ミュージアム平和教育研究センターのプロジェクトと連携し、1960年代末に反響を呼んだ市民による自由な平和運動の掘り起こしとして研究者の注目を集めました。

122回

東日本大震災の記憶

～「3.11」の“これまで”“これから”～

会 期：2019年4月1日(日)～4月26日(金)

主 催：志麻 克史



滋賀県草津市在住の志麻克史（しま かつふみ）さんが東日本大震災の被災地取材した写真展です。各種メディアの震災報道の背後に「報道の偏り」「情報の不足」を感じ取った志麻さんは、2011年の震災発生以降、毎年被災地に赴き、現地の調査・取材をされています。2015年にはそれら現地調査の結果を神戸大学や立命館大学の研究会で報告寄稿されました。

これまでの取材で志麻さんが撮りためた写真を中心に、現存する被災建物内部の映像や自治体が発行した刊行物など実際の資料約80点を展示しました。

東日本大震災が発生して8年、「記憶の風化」が危惧されています。写真や展示資料から、被災地の“これまで”を振り返り、現状を見つめ、さらに復興や支援のあり方など“これから”を考える機会となりました。

123回

堂畝紘子写真展

生きて、繋いで 一被爆三世の家族写真一

会 期：2019年5月1日(水)～5月25日(土)

主 催：被爆三世これからの私たちはproject



原爆投下から74年。被爆者である祖父母から実体験を直接聞くことのできる最後の世代である私たちは、その記憶をどう受け止め、次の世代へ伝えていけば良いのでしょうか。

写真家の堂畝紘子（どううね ひろこ）さんは、2015年1月から撮影活動を開始し、これまでに広島・長崎で70組を超える家族を撮影してきました。撮影を予定していた被爆者の方が直前に亡くなることも度々あり、残された時間は多くなく、今活動することの重要性を強く感じると言います。

本展では、被爆者から被爆三世（四世）までの命のつながりを、10組（約70点）の家族写真と、それぞれの家族で継承されている被爆体験をパネルや冊子にして展示しました。

被爆者の高齢化が進み、被爆・戦争体験を若い世代にどう継承していくかが問われる中で、平和・命などについて考えるきっかけとなることを願い開催されました。

124回

キューバと日本の絆をさがして

会 期：2019年6月3日(月)～6月28日(金)

主 催：安保 寛尚 (立命館大学法学部准教授)

キューバへの留学プログラムに参加した学生の体験を写真や映像、パネルなどで紹介しました。学生たちは日系移民のコミュニティや日本文化愛好団体、ハバナ大学の方々と交流し、キューバの有名な観光地や、音楽、葉巻、ラム酒、クラシックカーといったよく知られているものについてだけでなく、奴隷制やキューバ革命などの歴史への理解を深めました。そんな学生たちの報告からキューバの現在を知り、あらためて平和のために私たちができることを考えるきっかけになることを願い開催されました。



125回

ハンパク1969 ー反戦のための万国博ー

会 期：2019年7月17日(水)～8月24日(土)

1969年、真夏の大阪で開催された「反戦のための万国博（ハンパク）」開催に向けた呼びかけ記事、会場でリアルタイムに発行された「日刊ハンパク」、会場の様子を捉えた貴重な写真など約100点を展示しました。

ハンパクから半世紀の節目に、これらの展示資料を通して、ハンパクが社会に問いかけたものを振り返りました。

関連企画

トークイベント

「ハンパクがもたらしたもの」

日 程：2019年7月20日(土)

会 場：立命館大学国際平和ミュージアム 2階会議室

登壇者：山本 健治氏 (元ハンパク事務局、フリーライター)

ファシリテーター：番匠 健一氏 (立命館大学国際平和ミュージアム 平和教育研究センターリサーチャー)



126回

熟覧Ⅳ ーメディア資料室への誘いー

会 期：2019年9月1日(日)～9月28日(土)

2016年に第1弾を開催した、立命館大学国際平和ミュージアムの学生スタッフによる資料紹介を中心とした展示企画の第4弾です。学生スタッフと立命館大学の学芸員課程の学生が、それぞれの専門や興味関心から選んだメディア資料室所蔵の書籍とその紹介文16点と、関連資料約40点を展示しました。また、サテライト会場として、メディア資料室でも展示・閲覧コーナーを展開しました。

また本展は、ICOM（国際博物館会議）京都大会2019参加者の来場を想定し日英2言語での展示を行いました。



127回

第13回立命館附属校平和教育実践展示 私たちが目指す世界：立命館のSDGs

会 期：2019年10月7日(日)～12月13日(金)

主 催：立命館中学校・高等学校、立命館宇治中学校・高等学校、
立命館守山中学校・高等学校、立命館慶祥中学校・
高等学校、立命館小学校

本企画は立命館附属校（小学校、中学校、高校）の平和教育の取り組みと成果を紹介し、今日の学生たちの平和・人権・環境などの課題に対する意識、現代社会や世界との関わり方に対する認識を一般の方にも知ってもらうことを目的としています。

本展では「私たちが目指す世界：立命館のSDGs」を共通テーマとして、立命館附属5校の平和学習の取り組みとその成果を紹介しました。



128回

パネル・写真展

わたしを ここから だして

—オリンピックの「治安対策」の名の下に 入管収容所で苦しむ外国人の現在（いま）—

会 期：2020年1月13日(日)・(祝)～2月8日(土)

主 催：クルド人難民Mさんを支援する会

2020年東京オリンピック・パラリンピックへ向けた準備が進む中、「治安対策」の名の下に収容される難民が急増し、迫害が待つ母国に帰れない難民たちは帰国を拒否し続け、そのため長期収容を強いられています。帰国が長期収容かを迫られた結果、2018年には施設内で自殺者・自殺未遂者が多数発生しました。

日本に逃れてきたクルド人がどのような状況にあるのか、入管の収容所で何が起きているのかを、収容者の証言や新聞報道・写真を交えながら現状を伝えました。また、クルド人写真家レフィック・テキン氏が撮影したトルコ政府によるクルド人抑圧に関する写真も併せて展示しました。



129回

こんなはずじゃなかった

会 期：2020年2月17日(日)～3月21日(土)

協 力：京都新聞社、立命館大学地域健康社会学研究センター

戦後日本社会での早川医師の取り組みと、老いの中で理想の医療と介護を考え続けた姿を紹介した「こんなはずじゃなかった」（松村和彦写真展 KG+2019 KYOTOGRAPHIE SATELLITE EVENT）をもとに、松村氏自作の写真集等も加え、安心、安全に暮らす社会を私達はどのように実現することが出来るのかを、改めて考える機会として開催しました。

新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、2月29日で閉会となり、予定していた関連企画も中止となりました。



4 アウトリーチ

アウトリーチ展としては毎年参加している「茨木市非核平和展」での展示および立命館大学図書館の展示への共催・協力を行いました。

茨木市非核平和展

儀間比呂志版画展

会 期：2019年7月30日(木)～8月4日(日)

会 場：茨木市中央図書館

主 催：茨木市

協 力：立命館大学国際平和ミュージアム、他

2019年度は茨木市非核平和展において「儀間比呂志版画展」を開催しました。また、関連企画として「沖縄戦を生きた子どもたち～絵本と音楽のコラボレーション」も開催することができ、来場者に平和を考えるきっかけをもってもらうことができたのと同時に立命館大学国際平和ミュージアムについて知ってもらえる場ともなりました。



図書館 展示企画への共催・協力

「わたしたちも撮りたい！ ～ネパールのひとびとがみる生活文化～」の写真展

OICライブラリー

会 期：2019年4月2日(木)～5月7日(火)

BKCメディアライブラリー

会 期：2019年6月20日(木)～7月30日(火)

本学映像学部・鈴木岳海先生提供によるネパールのネパール族の生活文化に焦点を当てた写真展で、ネパール人カメラマン・アムリット・ヴァジュラチャリヤさんの作品と高齢者施設 Hiranya Day Care Centerに集うひとたちが身のまわりのひとやものを撮影した写真で構成されました。本展示は2018年度の立命館大学国際平和ミュージアムでのミニ企画展示の巡回展でした。(立命館大学国際平和ミュージアム共催)



1969年の立命館

～末川文庫に見る50年前の学園と学生生活～

OICライブラリー

会 期：2019年5月18日(土)～6月30日(日)

今からちょうど50年前の1969年は立命館大学にとっては激動の1年間でした。末川総長の退任と学園紛争、その中で当時の学生生活がどのようなであったかについて、立命館大学図書館所蔵の「末川文庫」と諸資料によって明らかにしていきます。本展示は2018年度の立命館大学国際平和ミュージアムでのミニ企画展示の資料を提供しました。(立命館大学国際平和ミュージアム協力)

平和教育研究センター活動報告

立命館大学国際平和ミュージアム平和教育研究センターは、立命館大学国際平和ミュージアムの活動の蓄積を踏まえ、博物館として行うべき調査研究活動をいっそう促進することを第一義としつつ、教学理念である「平和と民主主義」に基づく「大学立平和博物館」として特色のある調査研究を行い、立命館大学国際平和ミュージアムの教育・研究機能の発展に貢献することを目的としています。

1 センター企画・公開講演会

土曜講座

戦争の歴史に学び、戦争のいまを怖れる

① 満蒙開拓団の歴史は問いかける

—戦後日本社会と地域—

日 程：2019年8月24日📅

講 師：細谷 亨氏 (立命館大学経済学部准教授)

会 場：末川記念会館SK101

② 『核ミサイル防衛』の復活と日本の針路

—『世界終末時計2分前』のリアル—

日 程：2019年8月31日📅

講 師：藤岡 惇氏 (立命館大学名誉教授)

会 場：末川記念会館SK101



講演会

日本人被爆者と日系アメリカ人被爆者の活動から 平和運動を考える

日 時：2019年10月25日📅16:30~18:30

講 師：Gloria R. Montebruno Saller氏

(米国広島・長崎原爆被爆者協会 (ASA) 名誉理事/歴史家)

コメンテーター：根本 雅也氏

(立命館大学国際平和ミュージアム平和教育研究センターリサーチャー/
立命館大学衣笠総合研究機構プロジェクト研究員)

司 会：山根 和代氏 (立命館大学国際平和ミュージアム平和教育研究センター運営委員)



映画会

日 程：2019年10月26日📅

会 場：立命館大学衣笠キャンパス充光館地階JK001

上演スケジュール：

10:30-11:00 ドキュメンタリー「もし、この地球を愛するなら」
(1982年26分) / 館蔵

11:00-12:00 ドキュメンタリー「生きていてよかった」
(1956年49分) / 館蔵

13:00-15:00 劇映画「ヒロシマの証人」
(1968年120分) / 館蔵

15:15-16:30 映画「西から昇った太陽」
(2018年75分)

映画会

原簿にちなんで貴重な館蔵フィルムや2018年の新作映画を上映します。この機会にぜひお楽しみください。

開催日 10月26日(土) 申込不要、参加費無料、途中入室可

会場 立命館大学衣笠キャンパス 充光館地階JK101

10:30-11:00
【館蔵】ドキュメンタリー「もし、この地球を愛するなら」(1982年26分 カラー16mm)
医学的立場から環境被害を解明することで、自分たちの生きるこの地球を愛するなら、人類の未来を憂えるなら、今、何をなすべきかを考える。アカデミー賞ドキュメンタリー部門、アフリカフィルムフェスティバル、ブルリボン賞を受賞
監督：テリー・オッシュリン
製作：カナダ国立映画製作所 (NFB/C) 日本語版 DREAM LIFE CORPORATION

11:00-12:00
【館蔵】ドキュメンタリー「生きていてよかった」(1956年49分 モノクロ35mm)
フィルム提供 日本ドキュメント・フィルム社
原簿映画：記録映画界の巨匠、亀井文夫(1908-1987)監督が撮った被爆者の会合場！平和文化賞、ブルリボン賞を受賞した名作
監督：亀井文夫 助映：河原安 山崎聖哉
製作：原水爆禁止日本協議会、日本ドキュメント・フィルム社

13:00-15:00
【館蔵】劇映画「ヒロシマの証人」(1968年120分 モノクロ16mm)
1960年代、原爆で壊れていく者が後を絶たない被爆者から証言のヒロシマを描く。
監督：渡藤和彦
製作：「ヒロシマの証人」製作上映実行委員会

15:15-16:30
映画「西から昇った太陽」(2018年75分)
水爆実験に遭遇するという恐ろしい出来事が進歩たちにもたらした幸福と人生の困難を、当時を体験した年五福福丸の船員3名のインタビューと1000枚を超えるイラストによるストップモーションアニメで再現した。
監督：プロデューサー・キース・レイシク

立命館大学
国際平和ミュージアム
Kansai Museum for World Peace
International University

主催：立命館大学国際平和ミュージアム平和教育研究センター
連絡先：075-465-8151

教員免許状更新講習

日 程：2019年7月26日📅

第1講 「平和」の概念と現代的課題、「平和教育」の意義とねらい
安斎 育郎氏 (立命館大学名誉教授/立命館大学国際平和ミュージアム名誉館長)

第2講 「平和教育」の実践と課題

勝村 誠氏 (立命館大学政策科学部教授)

第3講 国際の平和および人権とミュージアムの展示

薬師寺 公夫氏 (立命館大学法務研究科特別任用教授)

第4講 「平和教育実践」に向けて

中本 悟氏 (立命館大学経済学部教授/立命館大学国際平和ミュージアム副館長)

2 プロジェクト研究

2019年度は、立命館大学国際平和ミュージアム平和教育研究センターは設置後3年目となりました。プロジェクト研究においてはリニューアルを念頭においた研究会の運営・新規設置や、国際ネットワークの進展につながる取り組みが旺盛に展開され、立命館大学国際平和ミュージアム平和教育研究センターとしての姿が確立してきました。また引き続き各種講演会の実施、紀要の発行等の研究成果の発信にも取り組むことができました。

平和博物館における戦争体験継承

戦争体験の無い世代がどのように戦争体験にアプローチ出来るか検討を行います。

①第25回ICOM（国際博物館会議）京都大会2019 FIHRM/ICMEMO 合同セッション

「博物館は深遠なものをどのように伝えるか」

大日本帝国の旧植民地からの声」

日 程：2019年9月2日㊦

発 表：「Communicating History through Exhibition」

兼清 順子（学芸員/立命館大学国際平和ミュージアム平和教育研究センター運営委員）

②映画企画

日 時：2019年12月4日㊦16:30～19:30

会 場：立命館大学国際平和ミュージアム 2階会議室

話 者：岡村 淳氏（映画監督）

聞き手：番匠 健一氏（立命館大学国際平和ミュージアム平和教育研究センターリサーチャー）

上映1：『移住四十一年目のビデオレター グアタパラ編』

上映2：『京 サンパウロ/移民画家トミエ・オオタケ 八十路の華』

立命館大学 国際平和 ミュージアム 平和教育研究 センター	
映画 企画	<p>『移住四十一年目のビデオレター グアタパラ編』</p> <p>『京 サンパウロ/ 移民画家トミエ・オオタケ 八十路の華』</p> <p>トーク ブラジル移民の戦争経験の継承</p> <p>話者 岡村 淳 監督</p> <p>聞き手 番匠 健一氏（立命館大学国際平和 ミュージアム平和教育研究センターリサーチャー）</p>
2019年 12月4日(水) 16:30～19:30 国際平和ミュージアム 2階会議室	<p>参加無料 事前申込不要</p> <p>〒603-8577京都市北区平等院北町55-1 TEL 075-465-8101 FAX 075-465-7999</p>

博物館の資料研究（一五年戦争セクション）

一五年戦争の実態や、その中での人々と戦争の関わり、一五年戦争がその後の社会や人々に与えた影響に関する調査研究と収蔵資料を結びつけることを目的に、収蔵資料に関わる研究会を開催して、資料の活用促進と研究成果の蓄積、研究成果と資料の結びつけを行います。

①第13回メディア資料研究会

「近代日本の戦争と写真報道

—写真は何を伝え、何を伝えなかったか—

日 時：2019年6月14日㊦17:00～19:00

会 場：立命館大学国際平和ミュージアム 2階会議室

講 師：井上 祐子氏（公益財団法人政治経済研究所主任研究員）

参加者：8名



②第15回メディア資料研究会

作品上映『さけ 先達のこえ』（制作：映像サークル「録」2020年15分）

（報告「戦争体験者の声をきいて」）

日 時：2020年2月12日㊦11:00～12:00

会 場：立命館大学国際平和ミュージアム 2階会議室

報告者：藤森 俊哉氏、木下 慧斗氏、山中 康平氏（立命館大学映像学部1年生）

参加者：37名



博物館の資料研究 (戦後社会セクション)

戦後社会の中で、市民が平和を求めた動きの見直しと再評価に繋がる資料収集、調査、研究、展示を行います。

① トークイベント

「ハンパクがもたらしたもの」

日 時：2019年7月20日(土)13:30～15:00

会 場：立命館大学国際平和ミュージアム 2階会議室

話 者：山本 健治氏 (立命館大学法学部卒、元ハンパク事務局長、フリーライター)

ファシリテーター：番匠 健一氏

(立命館大学国際平和ミュージアム平和教育センターリサーチャー)



② 第14回メディア資料研究会

「[ベトナムにおける戦争犯罪調査日本委員会] 調査団の活動

—陸井三郎資料・橋本雅弘資料を中心に—」

日 時：2019年11月15日(土)17:00～19:30

会 場：立命館大学国際平和ミュージアム 2階会議室

講 師：藤本 博氏 (南山大学アメリカ研究センター客員研究員)



自衛隊基地の地域社会史

近代や占領期の軍隊研究を参照しつつ、変わりつつある「自衛隊」の存在から地域社会と自衛隊の関係性を考えます。

① 第3回研究会

「自衛隊史における退職者団体という存在

—1960年、70年代における月刊紙『隊友』から—」

日 時：2019年5月25日(土)16:00～19:00

会 場：立命館大学国際平和ミュージアム 2階会議室

発表者：津田 壮章氏 (京都大学大学院)

コメンテーター：福間 良明氏 (立命館大学産業社会学部教授)

② 第4回研究会

日 時：2019年9月28日(土)15:00～18:00

会 場：立命館大学国際平和ミュージアム 2階会議室

第1部：講演「反基地運動の経験とピースデポの活動」

講 師：梅林 宏道氏 (NPO法人ピースデポ特別顧問、長崎大学客員教授)

第2部：全体討論「地域社会の軍事化をめぐって」

コメンテーター：大野 光明氏 (滋賀県立大学人間文化学部准教授)

③ 第92回日本社会学会大会

テーマセッション (3) 「東アジアの軍事化と地域社会」

日 程：2019年10月5日(土)

会 場：東京女子大学

④ フィールドワーク

大分県日出生台の軍事演習場への調査

日 程：2019年11月1日(土)

⑤ 第5回研究会

「軍事史研究の現段階と今後の課題」

日 時：2020年2月12日(土)15:00～18:00

会 場：立命館大学国際平和ミュージアム 2階会議室

発表者：原田 敬一氏 (佛光大学名誉教授)

コメンテーター：中島 弘二氏 (金沢大学大学院人間社会環境研究科教授)

京都・欧州人権セミナー

京都欧州人権セミナーを通じての人権問題の共同研究と国際ネットワークの構築を図ります。

① 紛争解決と平和人権特別講演会

「ユダヤ難民と北海道を救った樋口季一郎——北方領土問題の背景」

日 時：2019年5月15日(土)14:40～16:10

会 場：立命館大学衣笠キャンパス存心館Z5207

講 師：樋口 隆一氏 (明治学院大学名誉教授、DAAD友の会会長)

② セミナー

「日本の原発政策—エネルギーと安全保障 (仮)」

日 程：2019年6月4日(土)

講 師：Dr. Johannes Preisinger (元大阪神戸ドイツ総領事)

③ 比較司法制度研究会

「ドイツ医師責任訴訟の現在」

日 時：2019年10月7日(土)15:00～18:00

会 場：立命館大学朱雀キャンパス301教室

講 師：Prof. Dr. Markus Gehrlein (ドイツ連邦最高裁判事)

第一部：ドイツにおける医師の職業責任原則

通 訳：本間 学氏 (金沢大学法科大学院准教授)

コメンテーター：石橋 秀起氏 (立命館大学法学部教授)

第二部：ドイツにおける医師責任訴訟

通 訳：出口 雅久氏 (立命館大学法学部教授)

コメンテーター：平野 哲郎氏 (立命館大学法科大学院教授)

④最高裁研究会

第22回「現代民主主義の構築における司法の役割と国民的基盤
—司法行動・制度改革の実証的研究—」研究会
日 時：2019年10月10日(土)16:30～19:00
会 場：立命館大学朱雀キャンパス217教室
報告者：Schübel, Eva氏 (ドイツ連邦共和国連邦検事局検事)

⑤国際コロキウム

「強制執行における効果的な権利保護と人権」
日 程：2019年11月7日(土)～8日(日)

⑥特別講演会

“We called for workers and got human beings instead —
the German experience with foreign workers employment
and social equity”
日 時：2019年12月2日(日)16:40～17:50
会 場：立命館大学衣笠キャンパス存心館ZS203
講 師：Dr. Stephan Seiwert (ケルン大学法学部専任講師)

⑦講演

「平和・人権と和解 ヒトラーユーゲントとしてホロコーストを
生き延びたユダヤ人 サロモン・ペレルの物語」
日 時：2020年1月31日(金)15:30～17:30
会 場：平井嘉一郎記念図書館 1階カンファレンスルーム
講 師：Sally Perel氏 (元ヒトラーユーゲント/イスラエル人作家)

⑧比較司法制度研究会 (平和教育研究センター後援)

“Jurisdiction, forum and enforcement of judgements : the
challenge of cooperation between courts before and
after Brexit”
日 時：2020年2月17日(日)14:30～17:30
会 場：平井嘉一郎記念図書館 1階カンファレンスルーム
講 師：Ian Forrester氏 (欧州連合司法裁判所判事)

3.11後の平和博物館の展示内容の改善と 国際ネットワークの構築

世界と日本の平和博物館のガイドブック、Museums for Peace
Worldwide 2019年度版の編集及び国際ネットワークの構築に向け
た取り組みを行います。

①公開講演会

「日米対話交流イベント (米軍元捕虜の娘さんとの対話)」
日 時：2019年9月4日(土)14:00～16:00
協 力：日米草の根平和交流招へいプログラム (外務省)
報告者：ドーン・クレア氏 (米国人捕虜ウェイン・ミラー氏の娘)
アンドレア・クレンパ氏 (米国人捕虜ローレンス・ティプトン氏の娘)
コメンテーター：中尾 知代氏 (岡山大学准教授)



②研究会

「Analyzing Narratives in Museums for Peace」
日 時：2019年9月7日(土)14:00～16:00
講 師：Mona Badamchizadeh氏 (Volunteer, Tehran Peace Museum)

附属校平和教育研究会

立命館附属校平和教育実践の交流とその高度化にむけた研究会開
催、教材キットの開発および附属校平和教育実践の発信に取り組み
ます。

①2019年度附属校平和教育研究会

第1回 2019年5月31日(土)16:30～17:40
第2回 2019年8月1日(土)15:00～17:00
第3回 2020年2月27日(土)16:00～17:30

②第13回立命館附属校平和教育実践展示

第127回ミニ企画展示として、以下のとおり開催
2019年10月7日(日)～10月18日(金) 立命館慶祥中学校・高等学校
10月21日(日)～11月1日(金) 立命館中学校・高等学校
11月3日(日)～11月15日(金) 立命館小学校
11月18日(日)～11月29日(金) 立命館宇治中学校・高等学校
12月2日(日)～12月13日(金) 立命館守山中学校・高等学校

③紀要『立命館平和研究』第21号における実践報告

④「遺品から学ぶ沖縄戦学習プログラム」作成に むけた調査活動

「平和をもとめて」展示研究

常設展示リニューアルにおける「平和をもとめて」(平和創造へ
の努力)の展示設計にむけた検討を行います。

①キックオフミーティング

日 程：2019年11月14日(土)、11月15日(日)

②「東アジアにおける和解の歴史過程」研究会による 常設展示・展示評

日 程：2019年11月27日(土)
報告者：最上 敏樹氏 (早稲田大学政治経済学部教授)
Prof. Dr. Madelene Herren-Oesch
(Europainstitut, Universität Basel)
Prof. Dr. Ralph Weber (ditto)
Dr. Cornelia Knab (ditto)
Prof. Dr. Glenda Sluga (Sydney University)

③有識者ヒアリング

日 程：2020年1月9日(土)
報告者：藤岡 惇氏 (立命館大学名誉教授)

④「平和をもとめて」展示研究会

日 程：2020年1月24日(金)

3 センター活動の発信

紀要『立命館平和研究』第21号発行

巻頭特集「アメリカのヒバクシャ」

日本人被爆者と日系アメリカ人被爆者の活動から平和運動を考える
(グロリア・モンテブルーノ・セラー)

在米原爆被爆者とその周辺 (根本 雅也)

核の終わりを探る旅～アメリカニューメキシコ州・ワシントン州などを訪ねて～ (守田 敏也)

ほか

論文 1本

調査・研究・実践報告・コラム 6本

発行日：2020年3月26日

『資料研究報告』第4号

—博物館の資料研究プロジェクトの成果発信

2018年度および2019年度メディア資料研究会（一五年戦争セクション・戦後社会セクション）における以下の研究会の報告と研究会資料を『資料研究報告』第4号として発行します。

第12回「文書史料からみたハンパク（反戦のための万国博）」
(大野 光明、番匠 健一)

第13回「近代日本の戦争と写真報道—写真は何を伝え、何を伝えなかったか—」(井上 祐子)

第14回「[ベトナムにおける戦争犯罪調査日本委員会] 調査団の活動—陸井三郎資料・橋本雅弘資料を中心に—」
(藤本 博)

第15回「作品上映『きけ 先達のこえ』（報告「戦争体験者の声をきいて」）」(藤森 俊哉、木下 慧斗、山中 康平)

発行日：2020年6月26日

ホームページのリニューアル

2019年9月に立命館大学国際平和ミュージアム平和教育研究センターホームページをリニューアルしました。ホームページより、立命館大学国際平和ミュージアム平和教育研究センターの各種講演会・イベント・研究プロジェクトの取り組みや活動報告がより快適に閲覧できるようになりました。

<https://www.ritsumeikan-wp-museum.jp/peri/>

教育普及活動

教材キット・パネルの貸し出し

小中学校を中心に歴史や社会科、国語科、道徳等の授業を楽しく深く学ぶための教材を貸出しています。

- ・現代（さいころくん）キット
- ・一五年戦争（慰問袋）キット
- ・「原子力と私たちの生活」パネル

2019年度の利用状況は以下のとおりです。

	小学校	中学校	高校	その他	合計
現代（さいころくん）キット	6	19	0	2	27
一五年戦争（慰問袋）キット	5	5	1	1	12
「原子力と私たちの生活」パネル	1	1	0		2
合計	12	25	1	3	41

また、市民団体、機関が開催する各種展示会で活用いただける「展示パネル」の貸出を行っています。

() 内の数字は2019年度の利用状況

- ・原子爆弾：広島・長崎の記録 (2)
- ・原爆と人間展 (2)
- ・沖縄戦と基地 (1)
- ・井戸も掘る医者：ペシャワール会の医療活動・緑の大地計画 (4)
- ・放射能と人類の未来 (2)
- ・ヒロシマ・ナガサキ原爆と人間 (0)

博物館実習

学芸員資格の取得に必要な博物館実習の受入れをしています。2019年度は以下の通り実施し、実習生はミニ企画展示「熟覧Ⅳ—メディア資料室への誘い—」の展示制作や設営作業にも参加しました。

- ・6月21日(金)・22日(土)、8月26日(月)、27日(火)、29日(木)、30日(金)
計6日間
- ・文学部4名、映像学部2名の計6名を受入

前半（6月21日・22日）館長講義・館内見学・資料取扱・管理等
後半（8月26日・27日・29日・30日）運営業務説明・展示設営・マイクロフィルム撮影準備・資料撮影等

インターンシップ、チャレンジ体験

インターンシップでは、新たに「受け入れガイドライン」を取りまとめました。これに沿って、立命館大学大学院映像研究科から1名の大学院生を10日間受け入れ、今号の制作にあたり、編集の協力をさせていただきました。チャレンジ体験では、立命館中学校から3名を3日間、京都市立松尾中学校から3名を4日間受け入れました。中学生の子どもたちにもミュージアムやミュージアムでの仕事を知ってもらう良い機会であり、引き続き取り組みを継続します。

夏休みこども企画「へいわ」ってなに？ —今、わたしにできること— フェアトレード編

小・中学生を対象とした、広い意味で平和について考えていただく企画です。2019年度はフェアトレードをテーマとし、児童労働の問題やフェアトレードの仕組み、買い物を通して平和のためにできることを学びました。

日 程：2019年7月27日📅

講 師：安齋 育郎氏（立命館大学国際平和ミュージアム名誉館長）
大野 敦氏（立命館大学経済学部准教授）



教員向け見学説明会

主に小・中学校の教員を対象とし、国際平和ミュージアムを平和学習にご活用いただくためのガイダンスを実施しました。当日は常設展見学の他、安齋育郎名誉館長による平和講義、収蔵品・貸出教材の説明を行いました。

日 程：2019年7月23日📅～7月25日📅

8月19日📅・8月21日📅 計5回開催

NGOワークショップ

春学期1回、秋学期1回の計2回開催しました。立命館大学国際平和ミュージアム学生スタッフによる企画を実施しています。担当する学生により実施内容・参加人数に差が出てきており、早めの準備を行う必要があるといった課題があります。

第1回「男らしさ、女らしさってなんだろう？」

日 時：2019年7月15日📅・🕒18:00～19:30

講 師：福嶋 由里子氏（公益財団法人 京都YWCA）

参加者からは、「社会構造的な問題と、潜在的に意識に根付いている男が上、女が下という考え方、その両方の改革が必要であり、とても複雑な問題であると感じた。」「同世代の人たちとこのような話題について話せる機会があまりなかったので貴重な時間であった。」などの感想が聞かれました。

第2回「フェアトレードを広げるには？」

日 時：2020年1月17日📅16:20～17:50

講 師：大野 敦氏（立命館大学経済学部准教授）

参加者からは、「フェアトレードについて少しは知っていたが、『従来の国際貿易のルールと慣行を変える運動』としての側面を併せ持つことに驚いた。」「1人1人が当事者意識を持たなければ、フェアトレードの振興は難しいと思った。」といった感想が聞かれました。



立命館大学・附属校の団体見学

2019年度は、立命館大学文学部、映像学部、国際関係学部産業社会学部、経済学部、スポーツ健康科学部が1回生基礎クラスで団体見学を行いました。また、「日本の近現代と立命館」「戦争の歴史と現在」「平和学入門」「平和の経済学」「博物館展示論」「文化資源学」等の平和学や博物館学の講義授業でも数多くの本学の学生が見学を行いました。その他、ミュージアム運営委員を中心に個別に見学していただきました。

立命館附属校・提携校では、立命館小学校、立命館慶祥中学校、初芝立命館高等学校、初芝橋本高等学校の見学がありました。今後、立命館の共有財産である立命館大学国際平和ミュージアムの授業活用を進めるために、学部・教学部・一貫教育部との一層の連携・協力の強化が求められます。

博物館資料

資料・図書を受入（寄贈・寄託）

収蔵資料数 寄贈・購入・資料 43,806
寄託資料 4,095

(2020.4.1 現在)

2018年度資料寄贈

●寄贈件数……………29件438点

●主な資料群

土井利夫関係資料 旧陸軍軍医として出征した人物に関する資料
今西英一関係資料 1941～1947年錦林国民学校での成績表等、京都市岡崎周辺での生活に関する資料
江馬道生関係資料群 台湾からの引揚関連資料
松崎政治関係資料 憲兵隊配属兵士の戦地からの手紙、慰問のために作られた写真帳など。

資料貸出・閲覧状況

貸出：9件
閲覧：22件

図書寄贈（団体含む）

143件、575冊

図書購入

378件（高額書籍・映像資料を含む）

2018年度 資料・図書などの寄贈者一覧

資料				
足立 恭子	木田 寿二郎	西村 克美	松崎 元	
稲生 實子	北田 伸子	能勢 繁雄	宮本 勝子	
今西 英一	公庄 れい	野原 真栄	山本 紀代子	
片山 一美	瀬口 允子	橋本 美和	吉岡 妙子	
川上 博司	千嵯 由貴子	藤田 絵美		
河邊 聰	多田 彦士	藤原 修治		
岸 博実	辻 政子	増井 幸子		
図書				
新井 勝紘	伊吹 克己	白井 豆磨	布川 庸子	
安斎 育郎	植田 祥	竹村 泰弘	福重 幸雄	
市川 八重子	大塚 隆	玉川 侑香	藤岡 惇	
伊藤 昭	金子 雅寿	辻 政子	藤田 明史	
井上 泰行	北村 喜代子	永井 均	松崎 元	
井上 吉郎	蔡敦 達	中島 晃	Marten Sale Brouwer	
岩崎 三之利	澤田 良平	西野 ミヨシ	本村 廣司	

2019年度資料寄贈

●寄贈件数……………34件617点

●主な資料群

林尹夫関係資料群 出陣学徒関連資料
和田文六関係資料群 15年戦争期を中心に京都市北区における地域活動に関する資料
佐々木千代松関係資料群 1970年代の宗教者による平和運動関連資料
上村伊太郎関係資料群 戦前、戦後に主に謡曲レコードを販売、制作していた（有）能楽名盤会の関連資料
山本適太郎関係資料群 1918年前後に中国で行った事業貿易関連の資料、引揚の関連資料

2019年度資料寄託

1件（30点）

資料貸出・閲覧状況

貸出：10件 / 海外（韓国）を含む
閲覧：19件

図書寄贈（団体含む）

123件、211冊

図書購入

452件（高額書籍・映像資料を含む）

2019年度 資料・図書などの寄贈者一覧

資料					
足立 恭子	兼清 順子	津田 壮章	上村 雅之		
井出 章子	佐々木 三春	戸塚 英子	山室 律子		
大月 隆生	清水 祐信	鳥井 真木	山本 哲雄		
片岡 義男	齋藤 誠	鳥居 清朗	横川 幸治		
公庄 れい	竹内 保子	中原 文子			
倉田 光一	多田 彦士	西村 正滋			
黒崎 民子	田中 淳	前川 靖			
図書					
吾郷 眞一	小野 房子	瀬口 充子	古橋 芳紀		
安斎 育郎	君島 東彦	玉城 裕美子	藤本 博		
上田 幸男	グエン・ゴック	中原 文子	細谷 亨		
上村 雅之	楠山 雅彦	西 成彦	村尾 孝		
梅原 康	志岐 常正	番匠 健一			

2018年度・2019年度は、以上の方々から資料や図書などをご寄贈いただきました。お名前を記し、感謝の意を表します。

(敬称略・50音順)

今後の展示予定

2020年度 特別展 放射線像/Autoradiograph —放射能を可視化する—



「Evacuation」(2018・2019年)

会 期 2020年9月19日^土～11月7日^土

(休館日 日曜日、9月23日^水、11月4日^水)

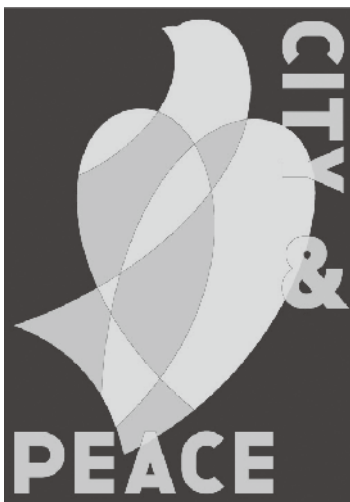
※無料公開11月3日^火・^金

展示内容 2011年3月の東日本大震災に起因した福島第一原子力発電所の事故により、大量の放射性物質が放出されました。映像作家・加賀谷雅道氏は、2012年より放射線像プロジェクトを開始し、見えない汚染の実態を伝える作品を発表しています。生態系への汚染の深刻さを伝える報道としての側面と汚染と向き合う現代社会を象徴する芸術としての側面を併せ持つ氏の作品は、ル・モンドなど海外の雑誌にも掲載され、アルスエレクトロニカ2017栄誉賞(2017年、オーストリア)、京都国際写真祭2017富士フィルムアワード(2017年)など、世界の芸術祭で多くの賞を受賞しています。本展では、福島で採取した生物や日用品などの中に存在する放射性物質をオートラジオグラフィーの手法によって可視化した作品約30点と3D映像の他、撮影に使用したサンプルや調査の様子を紹介する映像を展示します。なお、本展はKYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭2020アソシエテッド・プログラムです。

主催：立命館大学国際平和ミュージアム

協力：加賀谷雅道、森敏(東京大学名誉教授)、KYOTOGRAPHIE京都国際写真祭

2020年度 秋季特別展 南京国際平和ポスター・ビエンナーレ



会 期 2020年11月14日^土～12月12日^土 (休館日 日曜日、11月24日^火)

※無料公開11月14日^土

展示内容 南京は戦争の破壊から回復した都市であり、常に平和への追求をしてきました。その南京は、2年に一度「南京国際平和ポスター・ビエンナーレ」が開催されます。本展では、2017年と2019年の応募作品9,740点のうち入選した735点から、約200点を選び、侵華日軍南京大屠殺遇難同胞記念館と共同でポスター展として紹介します。言語の壁を越え、出品者の平和へのメッセージを受け取っていただければと思います。

主催：立命館大学国際平和ミュージアム、侵華日軍南京大屠殺遇難同胞記念館

協力：南京芸術学院、南京大屠殺史と国際平和研究院

「南京国際平和ポスター・ビエンナーレ」

南京のデザイナー・時澄氏がポスター展の為に創作した作品で、青と白を使って描かれた鳩が平和への思いを表現しています。

※コロナウイルス感染拡大防止の観点から、今後の展示・イベント企画を急遽延期もしくは中止させていただく可能性がございます。詳細は随時ホームページやTwitterにてご確認ください。

第10回国際平和博物館会議 (INMP 2020)

会 期 2020年9月16日^水～9月20日^日

世界の平和博物館の連携組織として「平和のための博物館国際ネットワーク」(INMP)があります。

立命館はINMP主催の第10回国際平和博物館会議を今年9月に日本で開催する準備を進めてきましたが、新型コロナウイルスのため「バーチャル会議」に方針転換しました。会員が直接会えないのは残念ですが、費用をかけて来日しなくても、世界中から電子空間を通じて気軽に参加できる利点があります。

申し込み締め切り日までにプレゼン希望者が延べ100人を超え、大盛況です。発表者は発表内容をビデオやパワーポイント映像やズーム会議の記録の形で組織委員会に送り、それらがプログラムに沿って編集され、9月16日からINMPのウェブサイトで公表されます。関連情報もウェブサイトに公表されるので、どうぞご覧ください。日本語のニューズレターも掲載されています。

ホームページ：<http://tinyurl.com/INMPMuseumsForPeace>

2018年度入館者状況 (2018年4月～2019年3月)

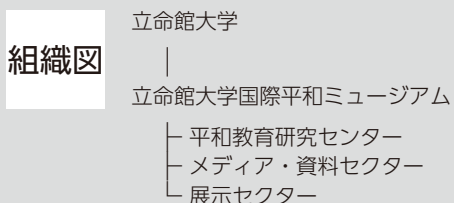
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数	25	27	26	24	26	20	26	24	20	22	24	26	290
入館者数	1,903	4,423	3,562	1,863	2,163	1,672	9,386	7,282	1,957	1,300	1,222	1,405	38,138
累計 (開館当初からの入館者数)													1,107,426

2018年度活動記録

特別展	4/14～7/16	春季特別展 KYOTOGRAFIE 京都国際写真祭 2018 アソシエイテッド・プログラム「ヤズディの祈りー林典子写真展ー」	10,085
	9/16～11/11	特別展「世界報道写真展 2018 —WORLD PRESS PHOTO 18—」	
	9/16～10/3	大分会場：立命館アジア太平洋大学	1,501
	10/6～10/28	京都会場：立命館大学衣笠キャンパス 中野記念ホール	6,911
	10/30～11/11	滋賀会場：立命館大学びわこ・くさつキャンパス エポック立命 21 エポックホール	968
	11/6～12/16	秋季特別展「8月6日」 「平和博物館における戦争体験継承のための展示モデル構築」プロジェクト成果展示	7,890
ミニ企画展示	4/1～4/22	第114回 「熟覧Ⅲーメディア資料室への誘いー」	—
	4/28～5/20	第115回 「私のレンズを通して見た、占領下のパレスチナ」	—
	6/2～7/1	第116回 ミュージアム・この1てん「ガマ (壕のくらし)」	—
	7/14～8/26	第117回 「外山重男ーある兵士の日常Ⅱー」	—
	9/11～9/30	第118回 写真展「原発とたたかうトルコの人々ー日本の原発輸出、現地の声は？ー」	—
	10/7～12/16	第119回 第12回立命館附属校平和教育実践展示	—
	1/17～1/31	第120回 「わたしたちも撮りたい！ーネワールのひとびとがみる生活文化ー」	—
	2/9～3/24	第121回 「京都青春時代 パート3ー学生と運動の風景ー」	—
イベント 講演会 その他活動		春季特別展「ヤズディの祈りー林典子写真展ー」関連企画	
	4/14	・オープニングイベント「林典子トーク」 登壇者：林典子氏 (フォトジャーナリスト) 対談者：竹中悠美氏 (立命館大学大学院先端総合学術研究科教授)	61
	6/2	・講演会「人道支援で出会ったヤズディの人たち」 講師：佐藤真紀氏 (JIM-NET 事務局長) / 平井嘉一郎記念図書館 1階カンファレンスルーム	32
	6/19・6/21	・映画上映会「ラジオ・コパニ」 / 充光館 JK001	77
	5/2	映画上映会「憲法を武器としてー恵庭事件 知られざる50年目の真実」 & ゲスト対談 / 創思館カンファレンスルーム	170
	5/18	科研費挑戦的萌芽研究「平和博物館における戦争体験継承のための展示モデル構築」プロジェクト 第7回ワークショップ「[声なき声] を聞き伝えるー沖縄戦の遺品ヒアリングの現場から」 報告者：西尾慧吾氏 (沖縄戦遺骨収容国吉勇応援会 学生共同代表)	8
	5/24	2018年度第1回附属校平和教育研究会	8
	6/16～6/17 7/12～7/14	博物館実習	9
	6/22	科研費挑戦的萌芽研究「平和博物館における戦争体験継承のための展示モデル構築」プロジェクト 第8回ワークショップ「継承の力学ー広島における「被爆体験」の遺産化とその影響」 報告者：根本雅也氏 (衣笠総合研究機構プロジェクト研究員 / 立命館大学平和教育研究センターリサーチャー)	9
	6/29	2018年度前期 NGO ワークショップ「世界の子どもたちにとっての平和とは？」 講師：加藤真希氏 (日本国際ボランティアセンター (JVC) 職員)	40
	7/25～7/27 8/21～8/23	教員向け見学説明会	53
	7/27	教員免許状更新講習	100
	7/27	第9回メディア資料研究会「フィリピンの日本人戦犯の記録についてー横山静雄元中将資料を中心に」 報告者：永井均氏 (広島市立大学教授)	13
	7/28	夏休み子ども企画「へいわ」ってなに？ー今、わたしにできることー災害から身をまもる編	29
	7/29	科研費挑戦的萌芽研究「平和博物館における戦争体験継承のための展示モデル構築」プロジェクト 第9回ワークショップ「レプリカ交響曲《広島平和記念公園 8月6日》(2015)」	12
	7/31	2018年度第2回附属校平和教育研究会	14
	7/31～8/5	平成30年茨木市非核平和展 (協力) / 茨木市立中央図書館	1,557
	7/31～8/5	第38回平和のための京都の戦争展 (会場)	2,685
	8/2	キューバプログラム支援 事前学習会	8
8/4	立命館土曜講座 ①パラリンピックと障害者スポーツ：傷痍軍人のリハビリテーションを起源とするパラリンピックから障害者の福祉を紐解く 講師：金山千広氏 (産業社会学部教授) / 末川記念会館 SK101	65	
8/25	②平和創造に向けたスポーツの役割とは何か：ノルベルト・エリアスの「文明化の過程論」からのアプローチ 講師：市井吉興氏 (産業社会学部教授) / 末川記念会館 SK101	78	

8/22	自衛隊基地の地域社会史プロジェクト 第1回研究会「大分県日出生台における軍事演習反対運動の展開—生活世界からの抵抗—」 発表者：中島弘二氏（金沢大学准教授） コメンテーター：大野光明氏（滋賀県立大学准教授）	16
9/8～9/9	劇「河」京都公演（協力）／紫明会館 3F ホール	321
9/10	第52回原爆忌全国俳句大会（後援）	45
9/16	没後10周年加藤周一さんを偲ぶ会（協力）	110
10/2	映画と講演のタビ「ベトナム戦争とは何だったのか」（共催）／キャンパスプラザ京都	70
10/10	京都・欧州人権セミナー 公開講演会「ブラジル民事訴訟法と人（仮題）」 講師：アントニオ・カブレラ氏（リオデジャネイロ大学法学部教授）	—
10/11	第10回メディア資料研究会「『人間の渦巻』をつくり出す『週刊アンボ』と小田実」 報告者：福井優氏（立命館大学大学院社会学研究科博士課程前期課程／平和教育研究センターリサーチアシリエイト）	7
	特別展「世界報道写真展2018」関連企画	
10/19	・講演会「写真で伝える仕事—世界の子どもたちと向き合って—」 講師：安田菜津紀氏（フォトジャーナリスト）	85
10/27	・ゴスペルコンサート『Make the world peace—平和への音色—』 演奏者：同志社大学音楽ボランティア・ゴスペルサークル「New Songs」（インターサークル）	45
10/27	フランチェスカ・ボッリ講演会 ネット時代におけるイタリアのジャーナリズム（協力）	10
11/6	京都・欧州人権セミナー「欧州人権裁判所と各加盟国の最高裁とのハーモナイゼーション（仮題）」 講師：ペギー・ドックロンピア氏（ストラスブール大学法学部教授）	—
11/6	講演会「海のホーチミン—ルート」（共催）／平井嘉一郎記念図書館 1階カンファレンスルーム	70
	秋季特別展「8月6日」関連企画	
11/17	・科研費挑戦的萌芽研究「平和博物館における戦争体験継承のための展示モデル構築」プロジェクト 第10回 ワークショップ「戦争体験『語り』の継承—広島、長崎、沖縄、国立を事例として—」報告者：外池智氏（秋田大学）	26
12/8	・科研費挑戦的萌芽研究「平和博物館における戦争体験継承のための展示モデル構築」プロジェクト 第11回 ワークショップ「くにたち原爆・戦争体験伝承者講話」報告者：沢村智恵子氏（くにたち原爆・戦争体験伝承者）	25
12/15	・ラウンドテーブル（展示評座談会） 討論者：浜日出夫氏（慶應義塾大学教授）、松尾浩一郎氏（帝京大学教授）、青木深氏（東京女子大学教授） モデレーター：根本雅也氏（立命館大学衣笠総合研究機構プロジェクト研究員）	15
11/20～11/21	チャレンジ体験 立命館中学校	3
	平和教育研究センター関連企画	
12/4	・「ベトナムフィルム映画上映会」 講師：ジェニー・チャン・レ氏（映画プロデューサー） コメンテーター：後藤千恵氏（大阪大学全学教育推進機構特任研究員）／充光館 JK001	38
12/13	第11回メディア資料研究会「漫画と戦争—やなせたかしと水木しげるの戦場体験をめぐって—」 報告者：山口一樹氏（立命館大学大学院文学研究科博士課程後期課程）	11
12/14	・世界人権宣言70周年記念企画・不戦の集い協賛企画「世界人権宣言を捉えなおす」 報告者：薬師寺公夫氏（立命館大学大学院法務研究科教授）、徳川信治氏（立命館大学法学部教授）、 吾郷眞一氏（立命館大学衣笠総合研究機構教授／国際平和ミュージアム館長）／存心館 ZS311	32
1/4	京都・欧州人権セミナー 講演会 講師：アンゲリカ・ヌスベルガー氏（欧州人権裁判所副長官／ケルン大学）	30
1/12～3/18	2017年度ノーベル平和賞受賞記念 ミュージアム・この1てん「弁当箱」／いばらきキャンパス OIC ライブラリー（2階展示室）	—
1/13	シンポジウム「記録されぬ人々～植民地朝鮮・大田の日本人～」（後援）	—
1/30	自衛隊基地の地域社会史プロジェクト 第2回研究会「創設期自衛隊と地域社会：募集業務と入隊経験」 発表者：松田ヒロ子氏（神戸学院大学） コメンテーター：安岡健一氏（大阪大学）	12
2/21	第12回メディア資料研究会「文書資料からみたハンパク（反戦のための万国博）」 報告者：大野光明氏（滋賀県立大学准教授／立命館大学国際平和ミュージアム平和教育研究センターリサーチャー） 番匠健一氏（同志社大学〈奄美-沖縄-琉球〉研究センター研究員／ 立命館大学国際平和ミュージアム平和教育研究センターリサーチャー）	9
2/22	2018年度第3回附属校平和教育研究会	11
2/22～2/23	京都・欧州人権セミナー「欧州法空間とアジア法空間—基本的価値としての平和、人権、民主主義、法治国家」に関する国際シンポジウム	50
3/10	軍学共同反対シンポジウム（協賛）	80
3/16～3/17	国境なき医師団南スーダン救出作戦～答えは変えられる～（協力）	97

※会場記載のないものは、すべて国際平和ミュージアムにて開催



運営体制

(2020年度)

- 館長** 吾郷 眞一（立命館大学衣笠総合研究機構教授）
副館長 市井 吉興（立命館大学産業社会学部教授）
 金森 絵里（立命館大学経営学部教授）
平和教育研究センター長 吾郷 眞一（立命館大学衣笠総合研究機構教授）
平和教育研究センター 副センター長
 春学期：市井 吉興（立命館大学産業社会学部教授）
 秋学期：加國 尚志（立命館大学文学部教授）
メディア・資料セクター長 田中 聡（立命館大学文学部教授）
展示セクター長 西林 孝浩（立命館大学文学部教授）

2019年度入館者状況 (2019年4月～2020年3月)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数	26	26	25	26	28	24	24	26	18	22	24	0	269
入館者数	2,117	4,270	5,139	2,266	2,684	2,100	7,861	6,513	2,118	1,341	869	0	37,278
累計 (開館当初からの入館者数)													1,144,704

※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、2020年3月1日から臨時休館を行っています。

2019年度活動記録

特別展	4/13～6/29	春季特別展 KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭 2019 アソシエテッド・プログラム「よみがえる沖縄 1935」	11,298
	9/23～11/11	特別展「世界報道写真展 2019—WORLD PRESS PHOTO 19—76億の目撃者たち」	
	9/23～10/5	滋賀会場：立命館大学びわこ・くさつキャンパス エポック立命 21 エポックホール	704
	10/7～10/31	京都会場：立命館大学衣笠キャンパス 中野記念ホール	7,036
	11/3～11/15	大分会場：立命館アジア太平洋大学	1,842
	11/7～12/18	秋季特別展「上野誠版画展—『原爆の長崎』への道程—」	6,867
	12/6～12/21	追悼展示「井戸も掘る医者—ペシャワール会の医療活動・緑の大地計画—」	—
ミニ企画展示	4/1～4/26	第122回 「東日本大震災の記憶 ～「3.11」の“これまで”と“これから”～」	—
	5/1～5/25	第123回 堂畝紘子写真展「生きて、繋いで —被爆三世の家族写真—」	—
	6/3～6/28	第124回 「キューバと日本の絆をさがして」	—
	7/17～8/24	第125回 「ハンパク 1969 —反戦のための万国博—」	—
	9/1～9/28	第126回 「熟覧Ⅳ—メディア資料室への誘い—」	—
	10/7～12/13	第127回 「第13回立命館附属校平和教育実践展示 私たちが目指す世界：立命館のSDGs」	—
	1/13～2/8	第128回 パネル・写真展「わたしを ここから だして —オリンピックの「治安対策」の名の下に入管収容所で苦しむ外国人の現在 (いま)」	—
	2/17～2/29	第129回 「こんなはずじゃなかった」(3/1～臨時休館)	—
イベント 講演会 その他活動		春季特別展「よみがえる沖縄 1935」関連企画	
	4/27	・座談会&ギャラリートーク「ネガ発見秘話と記者たちの思い」 登壇者：清水隆氏 (朝日新聞大阪本社フォトアーカイブ)、吉田拓史氏 (朝日新聞西部本社報道センター)、 堀川幸太郎氏 (沖縄タイムス編集局社会部南部報道部) コーディネーター：北村順生氏 (立命館大学映像学部准教授)	75
	5/7	・映画上映会「海の民 沖縄物語」『やぎの冒険』／平井嘉一郎記念図書館 1階シアタールーム	55
	5/11	ヒロシマ青春群像劇「河」～峠三吉の『原爆詩集』を読む (協力)	30
	5/15	京都・欧州人権セミナー 紛争解決と平和人権特別講演会「ユダヤ難民と北海道を救った樋口李一郎—北方領土問題の背景」 講師：樋口隆一氏 (明治学院大学名誉教授／DAAD友の会会長)／立命館大学衣笠キャンパス存心館 ZS207	12
	5/25	自衛隊基地の地域社会史プロジェクト 第3回研究会 「自衛隊史における退職者団体という存在—1960年、70年代における月刊誌「隊友」から—」 発表者：津田壮章氏 (京都大学大学院) コメントーター：福岡良明氏 (立命館大学産業社会学部教授)	15
	5/31	2019年度第1回附属校平和教育研究会	9
	6/4	京都・欧州人権セミナー セミナー「日本の原発政策—エネルギーと安全保障 (仮)」 講師：Dr. Johannes Preisinger 氏 (元大阪神戸ドイツ総領事)	—
	6/14	第13回メディア資料研究会「近代日本の戦争と写真報道—写真は何を伝え、何を伝えなかったか—」 講師：井上祐子氏 (公益財団法人政治経済研究所主任研究員)	11
	6/21～8/30	博物館実習 (6日間)	6
	7/15	2019年度前期NGOワークショップ「男らしさ、女らしさってなんだろう？」	10
	7/23～7/25	教員向け見学説明会	61
	8/19・8/21		
	7/26	教員免許状更新講習／末川記念会館 SK101	59
	7/27	夏休み子ども企画「へいわ」ってなに？ 一今、わたしにできること—フェアトレード編	43
	7/29～8/4	第39回平和のための京都の戦争展 (会場)	2,156
	7/30～8/4	令和元年茨木市非核平和展 (協力)／茨木市立中央図書館	2,189
	8/1	2019年度第2回附属校平和教育研究会	15
	8/24	立命館土曜講座 戦争の歴史に学び、戦争のいまを怖れる ①満蒙開拓団の歴史は問いかけ—戦後日本社会と地域— 講師：細谷亨氏 (立命館大学経済学部准教授)／末川記念会館 SK101	154
	8/31	②『核ミサイル防衛』の復活と日本の針路—『世界終末時計 2分前』のリアル— 講師：藤岡惇氏 (立命館大学名誉教授)／末川記念会館 SK101	163
	9/2	第25回 ICOM (国際博物館会議) 京都大会 2019 FIHRM/ICMEMO 合同セッション 「博物館は深遠なものをどのように伝えるか：大日本帝国の旧植民地からの声」 発表：[Communicating History through Exhibition] 発表者：兼清順子 (学芸員／立命館大学国際平和ミュージアム平和教育研究センター運営委員)	
	9/4	3.11後の平和博物館の展示内容の改善と国際ネットワークの構築プロジェクト ・公開講演会「日米対話交流イベント (米軍元捕虜の娘さんとの対話)」 報告者：ドーン・クレア氏 (米国人捕虜ウエイン・ミラー氏の娘) アンドレア・クレンバ氏 (米国人捕虜ローレンス・ティプトン氏の娘) コメントーター：中尾知代氏 (岡山大学准教授)	25
9/7	・研究会「Analyzing Narratives in Museums for Peace」 報告者：Mona Badamchizadeh 氏 (Volunteer, Tehran Peace Museum)	—	
9/14	第53回原爆忌全国俳句大会 (後援)	—	

9/23	加藤周一生誕百年記念企画 国際シンポジウム「加藤周一を21世紀に引き継ぐために」(協力) / 以学館 IG1 号ホール	450
9/28	自衛隊基地の地域社会史プロジェクト 第4回研究会 第1部: 講演「反基地運動の経験とピース・デボの活動」 講師: 梅林宏道氏 (NPO 法人ピース・デボ特別顧問/長崎大学客員教授) 第2部: 全体討論「地域社会の軍事化をめぐって」 コメンテーター: 大野光明氏 (滋賀県立大学准教授 / 立命館大学国際平和ミュージアム平和教育研究センターリサーチャー)	19
10/7	京都・欧州人権セミナー 比較司法研究会「ドイツ医師責任訴訟の現在」 講師: Prof. Dr. Markus Gehrlein (ドイツ連邦最高裁判事) / 立命館大学朱雀キャンパス 301 教室 第一部: ドイツにおける医師の職業責任原則 通訳: 本間学氏 (金沢大学法科大学院准教授) コメンテーター: 石橋秀起氏 (立命館大学法学部教授) 第二部: ドイツにおける医師責任訴訟 通訳: 出口雅久氏 (立命館大学法学部教授) コメンテーター: 平野哲郎氏 (立命館大学法科大学院教授)	
10/10	京都・欧州人権セミナー 最高裁研究会 第22回「現代民主主義の構築における司法の役割と国民的基盤—司法行動・制度改革の実証的研究—」研究会 講師: Schübel Eva 氏 (ドイツ連邦共和国連邦検事局長)	
10/14	特別展「世界報道写真展 2019—WORLD PRESS PHOTO 19— 76億の目撃者たち」関連企画 ・渋谷敦志氏×国境なき医師団トークイベント「人道危機の現場で、人々に寄り添うこと」	135
10/26	・世界報道写真展ロビーコンサート 立命館大学混声合唱団メディックス、立命館ジャズクラブ	65
10/25	平和教育研究センター企画 講演会「日本人被爆者と日系アメリカ人被爆者の活動から平和運動を考える」 講師: Gloria R. Monteburro Saller 氏 (米国広島・長崎原爆被爆者協会 (ASA) 名誉理事/歴史家) コメンテーター: 根本雅也氏 (立命館大学国際平和ミュージアム平和教育研究センターリサーチャー/ 立命館大学衣笠総合研究機構プロジェクト研究員) 司会: 山根和代氏 (立命館大学国際平和ミュージアム平和教育研究センター運営委員)	29
10/26	・映画会/立命館大学衣笠キャンパス充光館地階 JK101 ドキュメンタリー「もし、この世界を愛するならば」、ドキュメンタリー「生きていてよかった」、 劇映画「ヒロシマの証人」、映画「西から昇った太陽」	49
11/7~11/8	京都・欧州人権セミナー 国際コロキウム「強制執行における効果的な権利保護と人権」	
11/9	秋季特別展「上野誠版画展—「原爆の長崎」への道程—」関連企画 ・トークイベント I 「日本の加害責任を版画にした上野誠」 登壇者: 田島隆氏 (ひとミュージアム上野誠版画館 館長)	
11/16	・トークイベント II 「父・上野誠」 登壇者: 上野道氏 (版画家/ひとミュージアム上野誠版画館 副館長)	
11/14~11/15	「平和をもとめて」展示研究プロジェクト キックオフミーティング	7
11/15	第14回メディア資料研究会 「「ベトナムにおける戦争犯罪調査日本委員会」調査団の活動—陸井三郎資料・橋本雅弘資料を中心に—」 講師: 藤本博氏 (南山大学アメリカ研究センター客員研究員)	18
11/27	「平和をもとめて」展示研究プロジェクト 「東アジアにおける和解の歴史過程」研究会による常設展示展示評 報告者: 最上敏樹氏 (早稲田大学政治経済学部教授)、Prof. Dr. Madelene Herren-Oesch (Europainstitut, Universität Basel)、 Prof. Dr. Ralph Weber (ditto)、Dr. Cornelia Knab (ditto)、Prof. Dr. Glenda Sluga (Sydney University)	8
12/2	京都・欧州人権セミナー 特別講演会 “We called for workers and got human beings instead – the German experience with foreign workers employment and social equity.” 講師: Dr. Stephan Seiwerth (ケルン大学法学部専任講師) / 立命館大学衣笠キャンパス存心館 ZS203	
12/4	平和博物館における戦争体験継承プロジェクト映画企画 話者: 岡村淳氏 (映画監督) 聞き手: 番匠健一氏 (立命館大学国際平和ミュージアム平和教育研究センターリサーチャー) 上映①「移住四十一一年目のビデオレター グアタバラ編」 上映②「京 サンパウロ/移民画家トミエ・オオタケ 八十路の華」	30
1/9	「平和をもとめて」展示研究プロジェクト 有職者ヒアリング 報告者: 藤岡惇氏 (立命館大学名誉教授)	—
1/17	2019年度後期 NGO ワークショップ「フェアトレードを広げるには？」	12
1/24	「平和をもとめて」展示研究プロジェクト 展示研究会	8
1/31	京都・欧州人権セミナー 講演「平和・人権と和解 ヒトラーユージュントとしてホロコーストを生き延びたユダヤ人 サロモン・ペレルの物語」 講師: Sally Perel 氏 (元ヒトラーユージュント/イスラエル人作家) / 平井嘉一郎記念図書館 1階カンファレンスルーム	—
2/12	自衛隊基地の地域社会史プロジェクト 第5回研究会「軍事史研究の現段階と今後の課題」 コメンテーター: 原田敬一氏 (佛教大学名誉教授)、中島弘二氏 (金沢大学大学院教授)	36
2/12	第15回メディア資料研究会 作品上映「きけ 先達のこえ」(報告「戦争体験者の声をきいて」) 報告者: 藤森俊哉氏・木下慧斗氏・山中康平氏 (立命館大学映像学部 1回生)	32
2/17	京都・欧州人権セミナー 比較司法制度研究会 (平和教育センター後援) “Jurisdiction, forum and enforcement of judgements: the challenge of cooperation between courts before and after Brexit” 講師: Ian Forrester 氏 (欧州連合司法裁判所判事) / 平井嘉一郎記念図書館 1階カンファレンスルーム	—
2/27	2019年度第3回附属校平和教育研究会	10

※会場記載のないものは、すべて国際平和ミュージアムにて開催

編集後記

「国際平和ミュージアムだより」は2019年度より形式を変更し、翌年度の最初の号で前年度の事業報告を行うことといたしました。本来であれば6月にお届けするところ、新型コロナウイルス感染症の関係で8月号との合冊の形となり、ようやくお届けすることができました。これまでも様々な感染症の蔓延が人類を襲いましたが、今回の新型コロナウイルスは様々な面で私たちの社会生活に影響を与えました。当館においても3月以降臨時休館が続き、春季特別展、3回のミニ企画展示が中止または延期となりました。8月以降の在り方もまだ不透明な点が多く、当館の展示を楽しみにいただいている皆様には本当にご迷惑をおかけしました。そのような中で、何とか当館の収蔵資料をお届けしようと「WEB展示」に取り組んでおりますので、ぜひ当館のホームページをご覧ください。最後に、本号で掲載の「2019年度事業報告」は2020年2月に当館でインターンシップをした本学大学院映像研究科2回生張曜元さんが編集を担当したものです。ぜひ感想などお寄せください。

第134回「昭和初期の和服柄に宿る戦争」

会 期 2020年9月7日(月)～9月24日(木)

主催：大高 幸（放送大学客員教授）

展示内容 当時の世相を映した和服に描かれた戦争関連柄を紹介するとともに、



満州事変柄男物襦袢（昭和8年、部分）

今日見られる迷彩柄ファッションなどについて考えるきっかけになればいいと思います。

※10月以降のミニ企画展示の詳細はホームページにて、ご確認ください。

当ミュージアムでは、展示・所蔵している資料の一部を取り上げた WEB 展示を開始いたしました。

過去に「国際平和ミュージアムだより」で紹介した資料や、常設展で展示している資料をWEB展示としてホームページから発信しております。

立命館大学国際平和ミュージアムは、2021年4月から2年間のリニューアルのための休館を予定しており、2年という長期のリニューアル休館中を通して、当ミュージアムからのメッセージを広く社会にむけて発信する予定です。また今回の取り組みが、リニューアル後のWEBコンテンツ開発の一助となることを期待しています。

WEB 展示は国際平和ミュージアムのホームページから閲覧することが出来ます。ぜひ、ご覧ください。

<https://www.ritsumeikan-wp-museum.jp/webexhibition/>

遊心雑記

ムクゲの木、折られる

宇治川の白虹橋のたもとの「詩人尹東柱 記憶と和解の碑」敷地内のムクゲの木が、繰り返し折られる被害に遭っています。

尹東柱（ユン・ドンジュ）は韓国の国民的詩人で、1917年生まれ。1942年に立教大学に留学し、同年10月、同志社大学に転学しました。

しかし、翌1943年7月14日、日本の植民地政策批判などにより「民族独立運動を煽動した」として、従兄の宋夢奎（ソン・モンギョ）とともに治安維持法違反容疑で逮捕されました。1944年2月に起訴された二人は3月31日に京都地方裁判所で懲役2年の判決を言い渡されて福岡刑務所に収監されましたが、尹東柱はその一年後の1945年2月16日、不審な原因で死亡しました。満27歳でした。

尹東柱は同志社在学中に学友たちと宇治川に遊び、残されている人生最後の写真を撮影しました。私たち宇治市民はこの歴史的事実を記憶にとどめ、未来の教訓とするため「詩人尹東柱記念碑建立委員会」を発足させ、12年余りの努力の末に、2017年10月、宇治川のほとりに

安齋 育郎（国際平和ミュージアム名誉館長）

「詩人尹東柱 記憶と和解の碑」を建立しました。

2019年10月、記念碑建立2周年に合わせて、建立委員会は宇治市と在日本大韓民国団（民団）京都府地方本部の協力を得て敷地を整備しましたが、その際、民団側の意向を踏まえて韓国の国花であるムクゲの木を植樹しました。しかし、その後、何者かに幹や枝を折られる被害が相次いだため、2020年5月10日、建立委員会代表の私・安齋と事務局長の紺谷延子氏が宇治市役所で記者会見し、「命の大切さをうたう碑の前で、命ある緑を損ねないで欲しい」と訴えました。会見の様子は、NHK京都放送局のニュース番組で紹介され、朝日新聞、毎日新聞、洛タイ新報、京都新聞、京都民報で報じられるとともに、デジタル版でも広く紹介されました。

私は折られたムクゲの枝5本を挿し木して、再生を願いつつわが家で養生しています。



挿し木養生中のムクゲの枝

■ミュージアム概要■

開館時間：午前9時30分～午後4時30分（入館は午後4時まで）

※開館時間は変更することがございます。ホームページ等でご確認ください。

休 館 日：日曜日及び、祝日の翌日（日曜日が祝日の場合は開館、翌日が休館）

年未年始・年度末の大学が定める休館日 ※詳細はHPでご確認ください。

見学資料費（入館料）：大人400円、中・高校生300円、小学生200円

新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う

開館に関する対応について

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、今後の展示・イベント企画を急遽延期もしくは中止させていただく可能性がございます。詳細は随時ホームページやTwitterにてご確認ください。

立命館大学国際平和ミュージアムだより



立命館大学

国際平和ミュージアム

Kyoto Museum for World Peace,
Ritsumeikan University

第28巻 第1号（通巻81号）2020年8月28日発行

編集・発行 立命館大学国際平和ミュージアム

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1

TEL : 075-465-8151 / FAX : 075-465-7899

<https://www.ritsumeikan-wp-museum.jp/>

今後、特別展のご案内、ミュージアムだより等、国際平和ミュージアムより送付をご希望されない場合、また、送付先の住所変更等ございましたら、氏名・団体名、送付先住所、電話番号、FAX番号をご記入の上、国際平和ミュージアム（075-465-7899）へFAX送信ください。